



企業優先を排除せよ



公害絶滅兵庫県漁民大会

公害絶滅 悲願こめて怒りの 県漁民大会

海と川の破壊に怒りと抗議を呼びかけて去る五月十八日午後兵庫県漁連、同内海漁連、但馬漁連の共催による公害絶滅兵庫県漁民大会が各海区代表三〇〇余名を集めて開かれた。これは公害企業の無責任さ、企業優先の政府姿勢を追求するための抗議集会で、今日における大阪湾、播磨灘が工場廃液やヘドロ、産業廃棄物などで潰滅の危機にさらされ、今や漁民のみならず国民の健康と生活を脅かす昨今の公害に対し、公害闘争の先鋒として県下漁民が立ち上がったものである。そして公害との闘いをとことんまでやりぬく覚悟を新たにしつづつ、公害絶滅の悲願達成まで根強いたゆまざる運動の展開へ取組みはじめた。以下はその要約した記録である。

〒250 三浦市 三浦漁協 会館

6月号

No. 177

発行所 三浦市 三浦漁協 会館
兵庫県漁業協同組合連合会 123
神戸市兵庫区新在家町 6954
発行人 三浦清太郎
TEL 6685・6954
編集 三浦編集委員会
発行 毎月 30日
一部10円

昭和32年10月18日
第3種郵便物認可

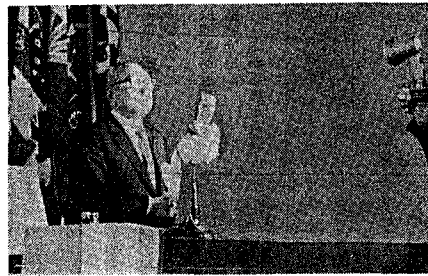
大会宣言 企業優先許さず

数年来われわれは、汚水公害の最も深刻な被害者の一として、多年にわたり悲憤たる叫びを訴えて来た。このため企業の無責任な利潤追求を助長し、公害は激化の一途を辿り、その犠牲は今や単に漁業のみならず広く国民の健康と生活をむしばむ重大



森漁協 森吉一組長

なる事態を招来し、川を破壊し続けるあらゆる汚染源に対し、徹底した責任を追究するとともに企業優先の態度を固執し公害防止対策を徹底してきた。行政並びに地方自治体の防衛的態度に対し、強く抗議するものである。 昭和四十六年五月十八日 公害絶滅 兵庫県漁民大会



沿岸漁業の歴史は公害との闘いの歴史であり、公害問題の解決なくして漁業の振興はありえない……と強調する三浦大会会長

公害絶滅兵庫県漁民大会は五月十八日午後三時三十分、神戸市兵庫区、県水産会館四階大会議室で開催された。大会には内海、但馬地区より代表三〇〇余人が参加し、「公害企業は漁場破壊の責任をとるべきだ」「このままでは死の海になってしまふ。漁場は縮小され魚はとれず生活難から奪われ」として次々に抗議と怒りをぶちまけた。 県下の昨年の水揚げ高は、

のり養殖、沖合イカ釣漁業に次いで、内海一〇二億円、但馬六〇億円の合計で一八〇億円の漁獲高は昭和三十六年以降六五、〇〇〇トン、八〇、〇〇〇トン前後で横ばい状態だが、タイナタレ流しとゴミ捨て場やクルマエビ等の高級魚はここ数年来激減の傾向にある。汚水、産業廃棄物等による影響をみる。又、昨年の公害被害は、ひいては人体に危険を及ぼす途にまで上り、推定され、これら損失は、一九六〇年度の我が国産物の飛躍的な進展は各種公害に拍車をかけ生活環境に異変を生じ、ひいては

大会スローガン

1. 政府、地方自治体は早急に公害絶滅体制を確立せよ!!
2. 企業は公害防止施設を即時完備せよ!!
3. 公害企業は漁場破壊の責任をとれ!!
4. 海と川をし尿やゴミの捨て場にすな!!
5. 漁業被害救済制度を早急に確立せよ!!
6. 漁場の破壊に抗議し、われらの漁業を守ろう!!

公害企業の責任糾弾 抜本策の即実施要求

大会は議長団に西上重三(県信漁連会長)、神頭宇市(播磨漁友会長)、浅尾勝松(西宮漁協会長)、坂口勝一(淡路漁協)の四氏を選び、議長団を代表して西上重三氏が着任の挨拶、テレビライト、カメラのフラッシュが交錯するなかで現地の状況報告、意見表明に移った。 先ず但馬漁民を代表して

尚新設の環境庁について、但馬漁連花巻専務が「美談 果半日で三〇〇トンのビンは、各自治体の判断や解釈をばかると公言のニール・プラスチック類が処理できないような絶対的な権限をもたせる必要がある。 海洋開発の基本的なマニフェストは水産資源の保護と開発を第一として石油その他資源の開発は両立併行が原則であり漁業に関する限り水質汚濁公害の防止なくして漁業の振興はありえない。これが防止対策の方法に至っては不

退転の決意を以て断固としてその実現を期せられよう切望する。と挨拶した。 大会は議長団に西上重三(県信漁連会長)、神頭宇市(播磨漁友会長)、浅尾勝松(西宮漁協会長)、坂口勝一(淡路漁協)の四氏を選び、議長団を代表して西上重三氏が着任の挨拶、テレビライト、カメラのフラッシュが交錯するなかで現地の状況報告、意見表明に移った。 先ず但馬漁民を代表して

度なくこの悲惨な実情を訴え、怒りと抗議をぶつけてきたが、その結果として我々の手に残されたものは「死の海」である。一体誰が汚れたのか、企業の無責任なたれ流しと公害行政の怠慢が今日の結果を招いたのだ。もう我慢できない。我々は一致団結しこの悲惨な実情を世論に訴え、政府、県市町の姿勢を正し、播磨の海を死に追いやった企業に対し徹底的にその責任を追及しよう」と怒りをぶちまければ、同じ立場にある摂津海区を代表した神戸市西部漁協高野専務は「海を汚すことは人類の破壊海工業地帯から排出される汚水・産業廃棄物は年間一八八六万トンと膨大な量のりかやっぱりかやっとならぬ。獲した魚は重金属や油類のため、死ねない。しかし我々の漁場は誰が守ってくれない。摂津の

5月の漁況と海況 (内海側)

●海況

4月30日～5月1日に大阪湾、2日播磨灘で実施した海洋観測結果によると大阪湾北東～中央海域にかけての各層水温値は13°C台、南部海域は14°C台を示したがこれらを平年に比較すると湾内全域にわたり1.0°～2.0°C低目、また播磨灘では全域にわたって表層13°C、中層12°C、底層11°C台を示し地層の格差はあまりみとめられなかったが大阪湾同様全域にわたって1.0°C内外の低目に経過し両域とも前月からの水温上昇(+2.5°C)が平年に比し鈍い。一方22日に実施した紀伊水道北部の海洋観測結果では東部の友ヶ島水道寄り(K1, K2)で各層16.0°～17.0°C、和歌山県沖の高沖(K2, K4)18.0°～19.0°Cで±2.0°Cの偏差、中部では16.0°～17.0°C、西部で15.0°～16.0°Cをそれぞれ示し前月同期より平均4.7°Cの昇温となったが全域にわたって前月に引続き平年より1.0°～2.0°Cの低水温が持続している。

●漁況 (概況)

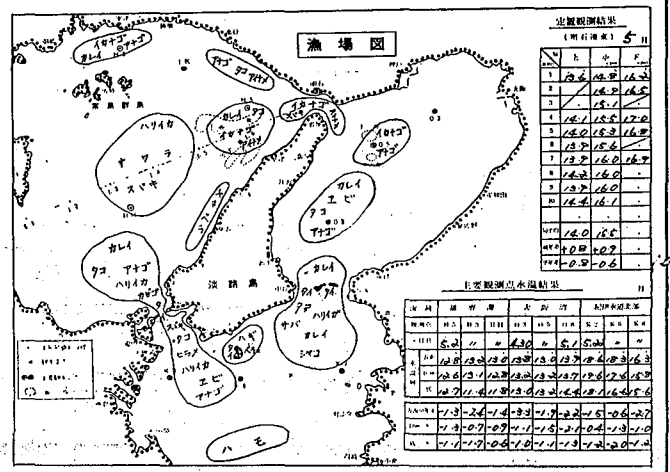
イカナゴ新仔も逐次漸付き時期に入り鹿の瀬、室津の瀬、上ノ瀬漁場でのパッチ網漁業は次第に活況を呈するようになったが明石瀬戸を中心として操業中のイカナゴ船隻、込瀬網は前月に引続き依然盛況で豊漁が持続している。また水温上昇と共に各地のタコ、エビイカ、アイナメ漁は次第に上向きを見せ、なかでも鳴門周辺、播磨灘東部海域でのタコ一本釣、蓋網などはかなり好調なスタートを切っている。しかし反面、海況でも述べたように県下内海全域にわたって低水温分布を示し、とくに紀伊水道北部海域が前月よりやや回復したものの本月も持続し同域より内海に回遊する魚族であるサワラ、タイ、クロダイなど対象とした漁業は全くの不振を続けとりわけ播磨灘中、南部で操業中のサワラ流し網漁業は近年にない不漁となっている。

●各地 (註以下は1日1隻当り平均漁獲量は1kg当りの単価、何隻は操業隻数)

- 明石 浦 イカナゴ船隻網5,000～6,000キロ@18～20円, 15統。イカナゴパッチ網3,000キロ@18～20円20隻。小型底曳網メイタカレイ5キロ@1,200～1,300円, アイナメ10キロ@700～800円, ハリイカ7キロ@500円, アナゴ10～15キロ@400円25隻。アイナメ手繰網20～25キロ@大1,000円小200円10隻。アイナメ1本釣5キロ@800～1,100円20隻。スズキ1本釣3～5キロ@1,500～1,800円(目廻り2K内外)10隻。メバル1本釣4～5キロ@1,000円10隻。
- 岩 屋 イカナゴ船隻網3,000～4,000キロ@20～24円16統。イカナゴ込瀬網(最高)16,000キロ(最低)2,600キロ@20～24円10統。メイタカレイ曳網10キロ内外@1,200円7隻。メバル1本釣5キロ@800円50隻。タコ1本釣10キロ@300円10隻。キス流し建網20キロ@500～600円5隻。アナゴ延組100キロ@大500小370円13隻。カレイ延組3～4キロ@1,100円4隻採藻ワカメ干り25キロ(2人乗)@750円30隻。
- 由 良 小型底曳網タイ8キロ@2,000円, メイタカレイ11キロ@1,400円, ハリイカ15キロ@350円, タコ7キロ@400円雑魚25キロ@150円55隻。建網カレイ12キロ@1,200円, ベラ10キロ@500円, アイナメその他8キロ@400円38隻。各延組ハモ40キロ@1,500円, アナゴ10キロ@500円, カサゴ7キロ@800円, 計20隻。タコ蓋網35キロ@500円1隻。各1本釣タイ4キロ@2,100円, タコ7キロ@300円, サバ15キロ@200円計80隻。潜水漁業ウニ、アワビ60キロ@1,000円20隻。
- 沼 島 小型底曳網カツワ5キロ@900円, エビ5～10キロ@500～600円, 小エビ20～30キロ@120円, ハリイカ5～10キロ@400円, アナゴ10～15キロ@300円, ショコエビ他20キロ@70円, チヌ10キロ@700円, タイ, ヒラメ1～3尾@タイ大1キロ以上2,000円中0.5～1キロ以上1,500円, 小0.5キロ以下1,100円, ヒラメ1キロ以上1,500円以下800円, 36隻。各1本釣ヒラメアジ25キロ(体長20cm)@380円小180円30隻。ベラ20キロ@500円2隻。ハモ延組30キロ@1,300円5隻。建網ハリイカ5キロ@400円, ウマズラハギ5キロ@中200円小50円サザエ20キロ@330円10隻。
- 福 良 エビ漕網クルマエビ1キロ@2,500円, カワツ5キロ@1,000円, 中, 小エビ12キロ@300円, ウシノシタ3キロ@490円, ハリイカ4キロ@430円, 30隻。各1本釣タコ8キロ@430円30隻。スズキ2～3尾(目廻り2キロ内外)@900円6隻。延組アマカレイ3キロ@650円, ベラ15キロ@400円, 13隻。建網ベラ25キロ@400円2隻。
- 丸 山 延組アナゴ45キロ@330円, カサゴ14キロ@500円 23隻。タコ蓋網100キロ@450円8隻。建網ハリイカ15キロ@200円, アマカレイ5～6キロ@600円, チヌ5～6キロ@500円8隻。タイ五智網7～8キロ@1,700円2隻。キス流建網15キロ@330円2隻。
- 五 色 サワラ流し網2～4尾(目廻り3～4キロ)@1,000円70隻。

●今後の見込み

※カタクチシラスの本年春季発生群について…シラス漁は和歌山(紀伊水道)では約1旬のおくれはあるが4・5月のシラスは前年並の高水準を維持し、徳島(紀伊水道)では5月中旬以降好漁に転じ1日統当たり2トンの漁獲を示した。したがって本年春季群の南戸内海への補給は時期的にややおくれるがほぼ平年並と予想される。※カタクチイワシ中～大羽群について…大阪湾系来遊時期はほぼ平年並であろうが昨年の発生群が少ないので漁期前半はあまり期待は出来ないが、漁期後半は紀伊水道の春シラス漁獲状況からみてほぼ前年並。また播磨灘では5月初旬の環境水温が低目と現在回復に向っているので漁期は多少のおくれが予測され本年は昨年の発生群とあわせると前年以上の好漁は期待されない。(瀬戸内海東部カタクチイワシ予報会議より抜粋)(水試岩井)

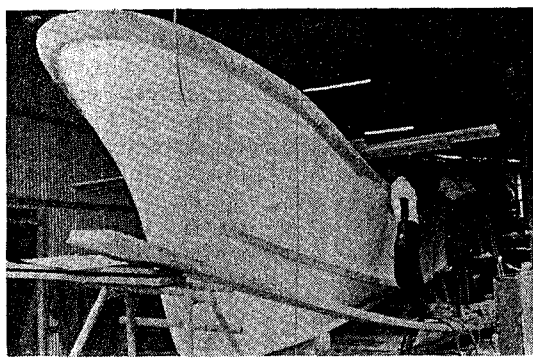


強化プラスチックの特性 ② 脚光あびる省力化

漁船建造材としての効用

人間の手で合成された材料は、人間に代わって作ることができ、その意のままに、かなりの重さを負って、しかも、その重さを負ったままに、長時間にわたって、その位置を占めることができる。これが、強化プラスチックの特性である。この特性を利用して、漁船の建造に用いることができる。従来の木造漁船に比べて、強化プラスチック製の漁船は、軽量で、丈夫で、メンテナンスが簡単である。また、腐食に強く、長寿命である。さらに、成形加工が容易であり、複雑な形状の船体を造ることも可能である。これらの利点を活かして、漁船の建造に強化プラスチックが広く採用されるようになることが期待されている。

強化プラスチックは、樹脂と繊維を主成分とする複合材料である。樹脂は、マトリクス材として、繊維を結合し、力学的強度を付与する。繊維は、補強材として、強度を向上させる。このように、樹脂と繊維の組み合わせによって、強化プラスチックは、従来の材料よりも優れた特性を持つことができる。漁船の建造に用いる際には、船体の強度、重量、耐久性などを考慮して、適切な材料を選択することが重要である。



建造中のFRP漁船(「株式会社ないかい」にて)

的であって性質が変化しない。これが熱可塑性樹脂の性質である。この性質を利用して、強化プラスチック製の漁船を造ることができる。具体的には、樹脂と繊維を混合し、成形加工を行うことで、船体の形状を造ることができる。このようにして造られた船体は、軽量で、丈夫で、メンテナンスが簡単である。また、腐食に強く、長寿命である。これらの利点を活かして、漁船の建造に強化プラスチックが広く採用されるようになることが期待されている。

トのような樹脂が、塩化ビニルやポリプロピレンなど、熱を加えると軟くなり、冷めると硬くなる。この性質を利用して、強化プラスチック製の漁船を造ることができる。具体的には、樹脂と繊維を混合し、成形加工を行うことで、船体の形状を造ることができる。このようにして造られた船体は、軽量で、丈夫で、メンテナンスが簡単である。また、腐食に強く、長寿命である。これらの利点を活かして、漁船の建造に強化プラスチックが広く採用されるようになることが期待されている。

漁船建造材に使われる樹脂は、後者のエポキシ樹脂である。エポキシ樹脂は、硬化後、非常に強い粘着性を示し、繊維と強く結合する。このため、強化プラスチック製の漁船は、非常に高い強度を持つことができる。また、エポキシ樹脂は、耐水性に優れており、塩水に長時間浸しても劣化しない。さらに、成形加工が容易であり、複雑な形状の船体を造ることも可能である。これらの利点を活かして、漁船の建造に強化プラスチックが広く採用されるようになることが期待されている。

長い研究の才月と、巨費をかけて合成樹脂、ガラス繊維を、組み合せて開発された。強化プラスチック製の漁船は、従来の木造漁船に比べて、軽量で、丈夫で、メンテナンスが簡単である。また、腐食に強く、長寿命である。さらに、成形加工が容易であり、複雑な形状の船体を造ることも可能である。これらの利点を活かして、漁船の建造に強化プラスチックが広く採用されるようになることが期待されている。

いつも漁場に一番のり

- 主機用 4～1000馬力
- 補機用 8～3000馬力

3J E形 30馬力

ディーゼルエンジン

漁村の期待になう

県漁連他2団体 役員改選なる

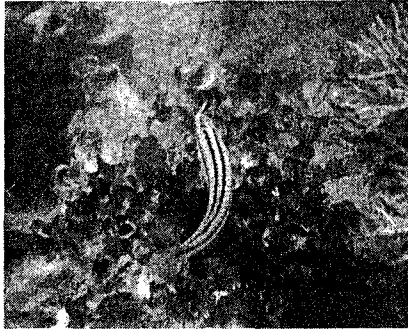
去る五月十七日より十九日までの三日間、県水産会館において県漁連はじめ系統団体の通常総会が開かれ一部団体で役員改選が実施された。

役員改選が行なわれたの	理事	山田 岸松	浅尾 勝枝
は県漁連、内海漁連、共済	副理事	神頭 宇市	河村 秀治
組合の三団体でこれは役員	理事	柳田 政市	西上 重式
の任期満了にともない実施	理事	浜本 一三	吉津 弥造
されたものである。	理事	調 正次郎	安田 信四
公費をはじめ漁場の狭少	監事	長谷 清次	岡本久五郎
化等本県水産業をうまく諸	監事	中島 義一	高浜 光次
情勢は極めて深刻であるた	監事	兵庫県内海漁連理事	三浦清太郎
めに各系統団体の使命は重	監事	兵庫県内海漁連理事	三浦清太郎
大でありその意味において	監事	兵庫県内海漁連理事	三浦清太郎
今回当選された左記各氏に	監事	兵庫県内海漁連理事	三浦清太郎
かける期待は非常に大きい	監事	兵庫県内海漁連理事	三浦清太郎
会長理事 三浦清太郎	監事	兵庫県内海漁連理事	三浦清太郎

魚の顔



いよいよ夏シーズンも終りの人々にも親しみの深い魚あけとなった。夏になる。夏はペラの釣りの船で、ペラと、海はペラの釣りの船で、科の魚を指すのであるが、ほとんどの釣りの船で、ペラ科の魚を指すのである。しか



180度方向転換中のペラ

ペラには、通称青ペラと赤ペラがある。青ペラは色の名が通り、体が全体に緑色がかっており、胸ビレの後方に黒斑が一つある。これに対して、赤ペラは全体に赤味を帯び、中央に黒い線がある。大きさは、青ペラが小さく、赤ペラは一般に大きい。そして、これを別の種類のように思っている人がかなりいるが、実は青ペラがオスで、赤ペラがメスなのである。ただし、幼魚のときは、オスもメスも、みんな同じように赤ペラである。成熟して一人前の男になったものだけが体色に変化して、いわゆる青ペラとなるのである。

D. L. (潮位基準面)

潮位すなわちある時の潮の高さを測る基準とする海面のことを潮位基準面と云い、略してD. L. の記号であらわす。最近漁港等の港湾工事の施工にあたり、防波堤などの高さや港内の水深を決める時に基準として使用される。海上保安庁から発行されている潮汐表に出てい

高潮、低潮の潮位の基準面は海図の水深の基準となる海面(基本水準面)に合わせてある。云いかえるとはほぼ年間の最低潮時の海面を潮位基準面としている。

潮候曲線

潮汐の干満を記録させる器械(検潮器)によりその記録紙上に書かれた記録のことを云う。この記録は一つの連続した曲線になって表わされるので潮候曲線と云う。

大潮差

大潮時における平均の干潮と満潮の潮位の差を大潮差と云う。(嘗)



スマートな泳ぎ振りの赤ペラ

わたって多数住んでいる。海底が軟泥の所ではほとんど見かけない。ペラは、夜になると砂の底を好み、そのような海底でコブシ大の石の多い海

鵜飼廿四光

(14) 金丸さん

島根に 沼島千軒かね島も その魚鳥の調網のころ

沼島に鵜飼の名人がおられるとのことで、ぼくが初めて沼島に渡ってからは、はやいものでも何年にもなると、その頃から金丸さんは沼島の漁民の為に、あらゆる努力を捧げてこられた。

人さわりのよい紳士であり、ものしづかな金丸さんのどこに剛志や実行力があるのか、この会うたびにぼくはこぼれをかきしめるが、それはそれは偉大なもので、獲る漁業から貯蓄の奨励、販売品の現金売りと等々書けばきりがなく、いかに書ききれないが沼島の漁民は金丸さんを軸にし、かなめにして生々流転していることばたしかである。

そんな際にあつて金丸さんは多言をいわず、自分の道を今日もまた明日も進みつづけるであろう沼島のため、組合員のために。

下立神 岩のまほらをつつ波は夕きりいつつ 潮みち来る (つねはる)

(46・6・12)

ペラが泳いでいるときは群をなすが、一匹一匹想いの方向に泳いでいる。また、彼等はほとんど静止することなく、絶えず泳いでいる。推進力は、体のどこで出しているのか、ちょっと見ただけではよく判らないほど、ほとんど体を動かさずスイスイと進む。ちょっと泳曲させて方向

養魚の調餌と造粒は コウベヒラガのミートチヨッパーで

養魚用ミートチヨッパーNo.32からNo.72まで各種製作しています。又最近の人工餌料需要の増加にともない生魚と人工餌料をよく練り合せ造粒装置付チヨッパーで給餌することもできます。

(御一報次第カタログ贈呈いたします)

ミートチヨッパーとプレート、ナイフの専門工場 株式会社 平賀工作所 神戸市長田区水笠通3丁目8 TEL代表神戸(078)62-1527

最高の性能と 最大の実績を誇る... ブイの王様 ゼニライト

あらゆる漁場にあわせてゼニライトは約40機種をそろえて皆様の御用命をお待ちしております。お問合せは各県漁連へどうぞ。

株式会社 銭屋アルミニウム製作所 浮標事業部 池田市牧島田2丁目1176-1 TEL: 0727801231-Telex: 5322-235 社務部 TEL: 0958266653-Telex: 7524-34-NEJTDJ 03(07)3661 Telex: 252-2087-TEL: 0122926371